

# それぞれの、ワカモノガタリ



動き出す、  
わたしの  
ワカモノ  
ガタリ

若者が語る，“若者の物語”は、きっと興味深い。  
場を創るなら、この場から何か始まる、動き出す場にしたい。

そんな想いをもって企画ボランティアの若者たちといっしょ  
に創ってきました。  
登壇者、参加者、そして協力者のみなさんがそれぞれに語れる  
場となるような場づくりは、事前にたくさんの方々和私たち  
主催者、そしてボランティアとが“対話”を必要とする時間と  
した。

語るだけで良いの？そもそも語りたいの？  
語れば、新たな意味や価値が見いだせるって本当？  
話したくない人だっている。聴くだけでも良いのでは。  
ホンネってどんな時に出せるかな？  
対話の場はどう創れるだろう。

それらの問いは、すべて解決することなく、当日を迎えました。

第1部全体会の最後に、登壇者から出た言葉があります。  
「今日何を喋るか考える中で、自分ってこういうふうと考えて  
いたんだなって新しい自分の気づきがあったので、すごい勉強  
になりました。」

第2部セミナーに参加した方からは  
「働くことや就活について他の人たちがどのような考えを  
持っているか知ることができた」  
「自分の気持ち、何が足りないか等が整理できました」  
など、グループワークを通して自分に引き付けて考えたり、自  
分自身の考えが整理されたり、他者とともに考えるからこそ  
見えてくる機会となったことが伺えました。

第2部トークフリマに参加した方や出展した若者の声には、  
「お悩みから新しい発見など色々なシェア、交流ができた。  
」  
「会話の中から次の作品のアイデアをもらったり、口に出し  
て夢を語り合うことでお互いをはげましあうことができました。  
」  
など、出逢い、話をするその先に“共感しあえる”“励ましあ  
える”“新たな発見や価値観を得る”といった成果を見出すこ  
とができました。

若者が語る、若者の物語。  
多様なアプローチで場づくりをしてきました。  
その語り場の価値はまだまだ散漫としていますが、語り合  
うことで、熱量の掛け合わせが起こるといこと、今回のユ  
ースシンポジウムは、その楽しさと歓びを体感できる場であ  
ったと思います。

今後も、それぞれのフィールドで、また多様なコミュニティの  
中で、わたしを語り、それぞれのわたしの物語を紡いでいっ  
てほしいと思います。

最後になりましたが、企画段階から時間をかけて創り上げて  
いってくださった講師、登壇者、協力団体、ボランティアのみ  
なさまにこの場を借りて御礼申し上げます。  
ありがとうございました。

それぞれの『ワカモノガタリ』にまた会えることを願って。

中京青少年活動センター 竹田明子